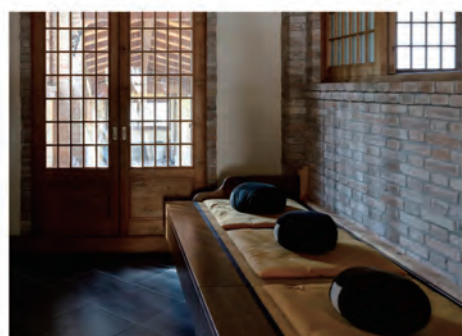


建設中の本堂

本堂完成予定模型



イタリア普伝寺へ 大般若経を贈る プロジェクト

令和2年 - 令和7年

曹洞宗群馬県宗務所第13教区



イタリア普伝寺へ 大般若経を贈るプロジェクト

曹洞宗群馬県宗務所 第13教区長
海源寺 住職 岩崎義幸



この度、コロナ禍を乗り越え、前教区長永隣寺住職 堀口元澄老師の企画発案のもと、令和2年より進めてきた『大般若経寄贈プロジェクト』第一目的であるイタリア普伝寺様を訪れ『世界の平和と皆様の幸せ』を祈る伊日合同の大般若祈祷会を執り行うことができました。

多くの方々にご協力をいただき修復できた大般若経を用いて、日本の僧侶とイタリアの僧侶と合同で『世界の平和』を祈る貴重なご縁をいただきました事、大変光栄に思います。

普伝寺様は、ヨーロッパに初めて曹洞宗の布教を始めた弟子丸泰仙老師の弟子であるグアレスキ泰天老師の熱意によって1984年に建立されました。ミラノから南へ約100km、サルソマジョーレ・テルメという町の風光明媚な丘陵地域にあり、日々坐禅修行を行っている曹洞宗大本山永平寺の直末寺院です。

法要は、法螺貝が響き渡り現地信者様も見つめる中、厳かに執り行われました。この法要でご祈祷いたしました御札はご寄付いただいた皆様に贈らせていただきます。

また、法要後には心温まる手作りのおもてなし料理をいただき、楽しく意義深い交流のひと時となりました。

『イタリア普伝寺拝登と宗教視察の旅』には、ご寺院・檀信徒総勢26名の方にご参加いただき、18時間程の長旅となりましたが、ミラノ・フィレンツェ・ローマなどで様々な宗教施設や世界遺産を巡る事ができ、大変貴重な経験となりました。

今回の祈祷会が実現できましたのも、偏に如来のご加護とご賛同いただいた多くの皆様のお陰と心より感謝申し上げます。結びに、皆様のご健康とご多幸をご祈念し、ご報告とお礼の言葉とさせていただきます。誠にありがとうございました。



大般若経寄贈プロジェクト

令和2年当時コロナウイルス感染症が世界で猛威を振るい、イタリアでは世界で最初のパンデミック(感染爆発)が起こり、多くの尊い命が失われました。そんな状況を目の当たりにした、曹洞宗ヨーロッパ国際布教師として普伝寺様に赴任していた神守寺住職 堀口智玄師から大般若経600巻を普伝寺様に寄贈し、現地僧侶と合同大般若祈祷会を行い『世界の平和』を共に祈りたいと発案がありました。

そこで私たちは、ご寄付を募り、この趣旨にご賛同くださった、多くの方々から支援が集まりました。そして、長学寺様が以前使っていた大般若経を修復し、併せて仏法の守護神である十六善神図を細谷義昭先生にお描きいただき寄贈する事といたしました。



プロジェクト概要

令和2年
・13教区を中心とした寺院、檀信徒から寄付を募る。
・長学寺の大般若経600巻を修復。

令和3年
・大般若経修復完了。600巻を納める桐箱を新調。

令和4年
・600巻に寄付者1,576名の名前を記入。
・細谷義昭先生作「釈迦十六善神図」完成。

令和5年
・航空便でイタリア普伝寺へ発送。
・長楽寺東堂 峯岸正典 老師、堀口智玄 師らが普伝寺にて、寄贈した大般若経を用いて最初の法要を行う。
・普伝寺から45名の旅行団が長学寺を訪れ、教区寺院と大般若法要を行う。

令和6年
・「普伝寺拝登と宗教視察の旅」を計画・募集。

令和7年
・有志寺院と檀信徒で普伝寺を訪れ合同大般若祈祷会を行った。

普伝寺



福厳寺 寺族 松浦和香江

18時間の空の旅でミラノへ、そして2時間のバスの移動で普伝寺へ到着します。

緑豊かな丘陵にある普伝寺はバスから足を降ろした時から、多くの皆様のお出迎えを受け「ようこそ普伝寺へ」と温かな思いが溢れていました。山門をくぐり抜け左に本堂、右に手入れの行き届いた庭を廻り地蔵院から鳳凰の間へと移動、和尚様方は翌日の法要の打ち合わせ、私たちは衆寮・内堂・本堂など通訳の方を介してご案内を頂き諸堂拝観をしました。これら多くの建物は牛舎を坐禅堂に改築したのを手始めに皆様が協力しながら手作りで建てられたと伺いました。

翌25日の合同祈禱大法要は快晴の中、法螺貝と太鼓と読経が二階の本堂から青空へ響き渡りました。人々の幸福と世界平和を祈念する和尚様方の大般若経の転読はまるで艶やかな舞を見ているようでした。そして御詠歌のお唱えと鈴で大法要が厳かに締めくくられました。地元の方々は本堂に入りきれないため鳳凰の間でのテレビ中継での参列となりましたが、大勢の信徒の皆様とご一緒出来ましたことは大変尊く感動と涙でした。

法要後の昼食は普伝寺住職様手作りのラザニアをメインにティラミスのデザートなど、どれも優しい味わいの普伝寺の皆様の心の思いが加味された最高のお食事をご馳走になりました。

この法要に大勢の皆様が沢山の時間と手間を費やし準備して頂いた事でしょう、心より深謝申し上げます。そして無事に普伝寺様の新しい本堂完成を御祈念申し上げます。



宗教視察



長楽寺 住職 峯岸典慶

バチカンやミラノ、フィレンツェにある大聖堂は、大理石やステンドグラスで華やかに装飾されていました。その大きさと高さは圧倒されるもので、日本の寺社と大きく異なりました。

ですが、ある教会で祈りを捧げる人たちと同じ空間に身を置く機会がありました。その方々と言葉を交わすこともありませんでしたが、祈る姿の真摯さとひた向きさに、崇高な静けさを感じました。

違いがあるからこそ気が付くことや、発見することがあると思います。同時に、違いを超えて共通する尊いものもあると思います。

今回、普伝寺様を拝登するかたわら、イタリア各地のキリスト教寺院を巡ることが出来ました。そこで出会ったキリストや聖母子をはじめとする聖像画や美術品、歴史が反映された建物や街並み、たまたま同じ場所に居合わせた人たち。忘れがたい思い出となりました。

